お城へ行こう!

~₹@1 Kasteel van Gaasbeek (Wlaams Brabant/M)

ブリュッセルの西側、Zenne川とDender川に挟まれた、 穏やかな丘陵地帯。~パヨッテンランド(Pajottenland) ~と呼ばれるこのエリアに広がる42haの森の中で美しい佇まいを見せているのが、ガースベーク城です。

もともとは1240年頃、ブラバン公国時代にフランドル、エノー地方からの侵略を防ぐため、要塞として建築された、同心円状の城塞でした。1388年ブリュッセルの英雄だったセラクースが処刑されたことに腹を立てた市民に破壊され、その後の2世紀にわたり外壁などの修復が行われたのを皮切りに、16世紀初頭、当時の所有者であったHorne家が城塞跡を土台として新たな城を建築しました。

1565年、エグモント伯が城および周囲の17の領地を所有することになりますが、3年後、ブリュッセルで処刑されてしまいます。

17世紀にはRenesse伯がフランス式庭園、バロック宮殿、教会を敷地内に建設するも、彼も処刑されてしまいます。その後所有者が次々と代わり、戦火をくぐり抜け、不景気の影響などで修復されることなく領地が切り売りされてしまうことになります。

18世紀始めScockaert家に所有が移り、修復の手が入ります。そして1887年から1898年にかけて当時の所有者である、Arconati Visconti 侯爵未亡人Marie Payratによって現在のお城の形となりました。1921年、彼女は城、敷地、および付随するものをベルギー政府へと譲り、3年後、彼女の遺言に基づき新たに美術館として一般にその門戸が開かれました。

そして1980年、フラマン語共同体へ譲渡され、現在は博物館としてその一部を一般公開しています。









門を抜けて長く続く並木道を歩いていくと、突き当たり横にお城が現れます。レセプションでチケットを購入後、庭園へ。手入れされた庭園からはブリューゲルの絵画そのままのフランダースの景色が、眼

下に望めます。

館内はオーディオガイドを手にグループで見学します。ネオゴシック、ネオルネッサンス、ネオロココと様々な様式の部屋をまわりながら、15~16世紀の家具やタペストリー、装飾品、調度品、絵画などを見ることが出来ます。所要時間は約1時間。エキシビジョ



ン期間中など学術員の案内が付くこともあります。またルーベンスの ひ孫とScockaert伯が婚姻関係にあったことから、彼の遺書を見るこ とも出来ます。

他にもミュージアムガーデンではハーブ類、林檎や梨、カボチャ、パプリカ、70品種にも及ぶプラムなど、たわわに実った果物や野菜を見ることが出来ます。種の保存のために栽培されているということで、収穫した農産物は全て廃棄するそうですが、植物など摘み取ることは禁止されていますので、お気をつけください。

お散歩に疲れたらカフェで一息。領地内に併設されたブラッスリーでは、おつまみからランチメニュー(ϵ 14)まで揃っています。小さな子ども連れなら、領地を出て向かいにあるブラッスリーもお勧め。子どもの遊び場があるため、親もゆっくり休憩できます。ぜひ試して欲しいのはこの地域で生産されているランビックビール。酸味が疲れた体に染み渡ります。外のカフェではチーズタルティンヌ (brood met witte kaas) もお勧め。







Kasteel van Gaasbeek (www.kasteelvangaasbeek.be) Kasteelstraat 40, 1750 Gaasbeek Tel:02 531 0130

Open:夏時間期間中(2013年は3/31~11/3)

10~18h(受付は17hまで、月休)

入場料:一般€8、26歳以下€1、7歳以下無料、庭園のみ€1 (特別展などイベント時は料金が変わります。

ウェブサイトを参照)

犬はリーシュ付きで可(城内、庭園、ミュージアムガーデンは不可)。 ピクニック、釣り禁止。



